

【天気予報及び概況】

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)
2019年	9.0	12.9	5.3	85.0
2020年	7.9	11.6	4.7	30.0
2021年	8.1	11.9	4.3	35.5
1991~2020年	8.3	11.8	5.0	64.5

※気温については、1ヶ月の平均値(気象庁)

【作物】

1 麦(裸麦・小麦)

(1) 雑草防除

播種直後に除草効果が低下した場合や、ヤエムグラ等の広葉雑草などが生育期に残っている場合は、次の薬剤を使用し、雑草防除に努めてください。

薬剤名	使用時期	10aあたり		使用回数	【適用雑草】 使用上の注意など
		使用薬量	希釈水量		
ハーモニー75DF水和剤	播種後～節間伸長前(但しス/メテッポウ5葉期まで)	5～10g	1000	1回	【1年生広葉雑草、ス/メテッポウ】隣接作物に飛散しないよう特に注意する。使用器具は使用後に消石灰500倍による水洗いを行う。
エコパートフロアブル	節間伸長開始期まで(但し収穫45日前まで)(広葉雑草2～4葉期、ヤエムグラ2～6節期)	50～100ml	1000	2回以内	【1年生広葉雑草】ヤエムグラに効果が高い。展着剤を加用せず、麦踏み後の数日間は避ける。

(2) 排水対策の徹底

湿害防止のため、圃場の周囲及び圃場内に3～5m間隔に排水溝を設置し、表面排水を良くしてください。特に、排水溝は必ず圃場の外まで導いて、雨水が排出されるようにしてください。

(3) 麦踏み

根の浮き上がり防止、分げつや根張り促進の効果があります。麦の3葉期以降で土壌が乾いている時に、年内1回の麦踏みを実施してください。

<城戸>

【野菜】

1 さといも

(1) 土づくり: いもの肥大は土壌が粘軟で深く、適湿を保持する圃場が適します。

- ア 年内に完熟堆肥の投入を終了してください。
- イ 投入量の目安は、完熟堆肥2t/10aまたは発酵鶏糞600kg/10aを施用し、深耕して3月に始まる定植までに土壌混和してください。

(2) 種芋の貯蔵

- ア 圃場選定
生育期間中、疫病による茎葉の損傷程度が少なく、乾腐病・軟腐病等による芋の腐敗が見られない排水の良い圃場を選定してください。
- イ 貯蔵方法

①圃場貯蔵

「畝中」で貯蔵する場合は、株の上を籾殻等で被覆し土入れ覆土を行い、不織布で被覆するなど防寒対策を十分に行ってください。

②生け込み貯蔵

いもを傷をつけないよう丁寧に掘取ってください。腐敗や割れ芋の有無を十分に確認して、風当たりの少ない排水の良い場所を選んでください。

(3) 低温の対応

初冬から春までの長期間で気温の変化があります、それに応じて覆土を加減し、適温を保つことが大切です。

2 やまのいも

(1) 土づくり

- ア 年内できるだけ早く、完熟堆肥2t/10aまたは発酵鶏糞500kg/10aを投入し土壌混和してください。
- イ 稲わらを切り込んでいる場合のわらの腐熟促進や線虫対策として石灰窒素(40～60kg/10a)を施用してください。

(2) やまのいも種芋の選別・貯蔵

ア 種芋の選別

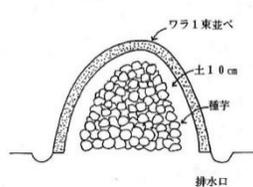
やまのいもの種芋は系統の良い丸い400g程度のもを選んでください。

イ 種芋の貯蔵

排水の良い場所を選び、芋を60cm程度に積み上げます。乾燥防止のために10～15cmの覆土をし、その上を稲わら等で覆います。

※倉庫でコンテナに入れたまま貯蔵すると芋が乾燥し、青カビ病の発生や発芽揃いが悪くなる場合がありますので注意してください。

(種芋の貯蔵法)



2 タマネギ

除草剤散布

活着後、ゴーゴーサン乳剤300～500ml/10aを水70～1000(または、トレファノサイド乳剤200～300ml/10aを水1000)に希釈し、散布します。

除草効果を高めるため、土壌が乾燥している場合は、降雨後に散布してください。

3 ソラマメ

(1) 摘芯・誘引

親茎が7節程度に伸びた頃、生長点の柔らかい部分を摘心し、側枝の発生を促します。株元からの強い側枝が4～6本程度確保でき次第、支柱を設置し誘引作業を行います。誘引して株元に光を入れることで同化能力が高まり、莢の肥大が促進されます。

(2) モザイク病

モザイク病ウイルスは、アブラムシによって媒介されます。アブラムシの発生を確認した場合は、アドマイヤーフロアブル4,000倍やモスピラン顆粒水溶剤4,000倍等で防除してください。

<可部>

【果樹】

1 温州みかん

収穫は、果実品質のバラツキを避けるために着色が早い樹冠外周、上部から分割採取し、果実を丁寧に扱って腐敗果の発生・混入を防いでください。採取後は、着色促進、浮き皮・腐敗の発生防止のため、減量歩合2～3%を目安に予措します。

2 中晩柑類

(1) いよかん

樹冠外周、上部の着色の早い果実から、分割採取を開始します。着色が遅れる内部や裾成り果は分けて収穫、貯蔵することで、出荷時の果実品質のバラツキを抑制しましょう。収穫した果実は減量歩合3～5%を目安に予措した後、本貯蔵を行います。

貯蔵の目安は、1～2月出荷では温度8～9℃、湿度85%。3月出荷では温度6～8℃、湿度80～85%です。換気にも注意。

(2) 愛媛果試第28号(紅まどんな)、甘平

愛媛果試第28号(紅まどんな)は、果皮障害の発生に注意し、JAの出荷規格に従って収穫、出荷を行ってください。甘平は、先月に引き続き果実への袋掛けやサンテ被覆(8分着色以降)を行います。

3 その他

収穫終了後は、耐寒性の向上と翌春の花芽分化を促すために、液肥の葉面散布を積極的に行いましょう。また樹勢がよい園では、12月中旬～1月中旬頃(厳寒期を避ける)、マシン油乳剤(95%)45倍を散布し、越冬害虫の防除に努めてください。

<可部>

【花き・花木】

1 ラナンキュラス(球根養成栽培)

(1) 苗床での追肥

本葉出葉後、葉色が薄くなり始める12月上旬頃に、くみあい液肥2号を400倍で2～3回追肥してください。

(2) 本圃準備・定植

定植期は12月下旬です。圃場のpHが適正值(6.5)より低い場合、苦土石灰を100～120kg/10a施用し、pHを矯正します。

また、連作圃場や土壌消毒した圃場では土壌がしまり固結気味となります。排水不良は後土の立枯れ等の多発要因となるので、完熟堆肥等を投入し土づくりに努めてください。

元肥は、ようりんを60kg/10a施用し、120cm幅で畝立てして定植します。定植30日後の1月下旬頃に、窒素成分を追肥で施用します。

2 アネモネ

(1) 害虫防除にバストガード水溶剤2,000倍を散布します。

(2) キノコバエの幼虫(4mm程度)は有機質に富んだ土壌中に生息し、発芽後から双葉期の葉や根を食害します。

3 シキミ

輪紋葉枯病は、葉に赤褐色の同心円状の輪紋を生じ、症状が進行すると落葉します。病葉は早めに摘み取り焼却します。ベンレート水和剤2,000倍またはZボルドー500倍を散布します。樹幹が込み合い、通気性が悪いと同病が発生しやすくなります。

<城戸>

【畜産】

(農場の消毒について)

気温の低下とともに、鶏では高病原性鳥インフルエンザ、豚では豚流行性下痢、牛では牛コロナウイルス病の流行する時期となりました。

農場・畜舎内へのウイルス侵入を防止するため、衛生管理の基本である「人、車両、畜舎」の消毒を徹底しましょう。また、消毒薬によっては**低温環境下で消毒効果が低下する場合がありますので濃めに希釈し、踏み込み消毒槽は直射日光が当たらないよう工夫してください。**

○主な消毒薬の適用希釈倍率

種類	分類	主な商品名	適用希釈倍数
逆性石けん	陽イオン系	アストップ	500～2,000倍
	アルカリ添加系	パコマ	500～2,000倍
複合製剤	オルソ系	クリアキル-100	500～2,000倍
		ゼクトン	100～300倍
その他	塩素系	トライキル	100～200倍
		クレンテ	300～3,000倍

○消毒に当たっての注意点

畜舎など施設の消毒前に、泥や糞尿などを十分洗い落としましょう。泥や糞尿は消毒薬の効果を弱めてしまいます。踏み込み消毒槽の消毒薬は、定期的に交換するとともに、汚れたらこまめに交換しましょう。

毎月20日は「一斉消毒の日」となっています。日ごろの飼養衛生管理を再確認し、農場防疫対策の強化に努めてください。

<平野>